



コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	土器コミュニティ	代表者	会長 高畑美嗣
事業名	青ノ山クリーンハイキング		事業費	約8万円	
事業の目的	土器町のシンボルである青ノ山に親しむことによりふるさとの良さを発見するとともに、そこでの清掃活動を通じて、コミュニティ活動への参加を促す。				
事業の概要	<p>青ノ山の麓の田潮八幡神社を出発点に、青ノ山遊歩道を歩いて山頂を目指す。山頂では、朝食を摂り、クイズやゲームで親睦を深めた後、ごみを拾いながら下山する。</p> <p>子どもからお年寄りまで参加しており、環境保全や健康づくりのほか、多世代交流や歴史自然学習にも繋がっている。</p>				
この事業を企画・実施した人	土器コミュニティ環境部・育成部				
苦勞した点	幅広い世代に参加してもらえよう、地元の保育所や幼稚園、小学校などに案内文を配布したり、親子で楽しめる催しを行ったり、工夫している。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <p>山頂での参加者記念写真</p>  <p>ハイキングの様子</p> </div>				





コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	土器コミュニティ	代表者	会長 高畑美嗣
事業名	どきっ DOKI サマーフェスタ		事業費	約 180 万円	
事業の目的	盛大に夏祭りを開催することにより、土器町に限らず幅広い世代、様々なつながりを持った人びとが集い、にぎわいを創出するとともに、地域の絆を深める。				
事業の概要	<p>城東小学校運動場を会場に行われる夏祭りで、保育所・幼稚園や小中学生の発表のほか、盆踊りや花火、バザーなど子どもから大人まで楽しみ、毎年多くの人々が参加している。</p> <p>また、当日は、コミュニティの人たちを中心に地域活動団体や PTA、スポーツ少年団など様々な人たちが関わって、早朝の清掃活動から準備、運営、深夜の片付けまでを行っており、地域の絆の力が発揮されている。</p>				
この事業を企画・実施した人	どきっ DOKI サマーフェスタ実行委員会				
苦勞した点	毎年、楽しみにしている人たちのために、飽きが来ないように趣向を凝らした催しを準備している。				
活動状況	 <p style="text-align: right;">準備の様子</p>  <p style="text-align: right;">盆踊りの様子</p>				




番号	1	団体名	飯野地区地域づくり推進協議会	代表者	会長 吉田順之
事業名	米作り体験学習			事業費	100,000円
事業の目的	食べ物が私たちの口に入るまでには多くの人の労力が必要ということを、米作り体験を通して子どもたちに理解してもらうこと。				
事業の概要	<p>飯野コミュニティ育成部が中心となって、飯野小学校5年生と飯野こども園年長児を対象に米作り体験学習を行っている。</p> <p>お米ができるまでは、田起こしをはじめ多くの工程や行事があるが、その内の6つ、「粃まき」・「田植え」・「足洗い」・「稲刈り」・「陸入れ（おかいれ）」・「餅つき」を飯野小学校5年生が体験している。また、「田植え」・「八朔団子馬作り」・「稲刈り」を飯野こども園年長児が体験している。子どもたちは、米作りの大変さや、自然の恵みに感謝する心を学んでいる。</p> <p>これらの体験学習は、飯野コミュニティ育成部が中心となり、準備とサポートを行っている。コミュニティの人たちにとっては、足洗いや陸入れなどの伝統行事の意味を伝えると同時に、地域の子どもの健やかな成長を見守る大切な機会となっている。</p>				
この事業を企画・実施した人	平成3年に飯野町が「地域農業活性化モデル地区」に指定されたことを受け、長寿会メンバーが始めたことがきっかけである。その数年後に飯野コミュニティ育成部の行事として取り組むようになり、今では毎年の恒例行事となっている。				
苦労した点	子どもたちの作業が予定どおりに進み、確実にお米がとれるように、稲の成長に特に目配りを行う必要がある点。				
活動状況	<p>《陸入れと餅つきをご紹介》</p> <p>陸入れは、豊作を田の神様に感謝しながら、収穫したお米を頂く伝統行事のことで、新米で炊き上げた小豆ごはん・飯野山に見立てた大きな油揚げをはじめとするお煮しめ・味噌汁・果物が並ぶ。今年は11月29日に開催。子どもたちは、コミュニティの方に見守られながら、田の恵みを存分に味わっていた。</p> <p>10月に収穫したお米で、餅つきを行った。1月14日に飯野小学校、1月17日に飯野こども園でコミュニティの方と一緒に実施した。</p>				



コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	飯野地区地域づくり推進協議会	代表者	会長 吉田順之
事業名	町民室内ペタンク大会			事業費	50,000円
事業の目的	すべての飯野町民がイキイキと毎日幸せに暮らせるように、町内スポーツイベントを開催し、町民の健康増進並びに自治会相互の親睦と交流を図ることを目的に実施。				
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日時 平成28年9月19日(月) ・場所 飯野小学校体育館 ・内容 室内ペタンク大会 <p>事前に全自治会へ大会要項を付けて案内し、自治会単位に2チームまで申し込みを受け付け、抽選による組合せを行う。 対戦方法は、3人対3人、先取得点11点先取制、制限時間20分として、予選はリーグ戦、決勝はトーナメント方式を採用。 個別チーム賞を上位4位まで、団体(自治会単位)は3位まで表彰。</p> <p>室内ペタンクは計画時点から天候を気にする必要がなく、こどもから高齢者まで幅広く参加できる手軽な競技なので、今後も継続して実施していく予定。</p> <p>参加者 約100名</p>				
この事業を企画・実施した人	<p>体育部会(メンバー12名)で企画・実施。協議会全体の合同部会、役員会の承認を得て実施。 体育部会のメンバーには、丸亀市スポーツ推進委員も含まれており、丸亀市スポーツ推進委員連絡協議会が7年前から室内ペタンクの普及に取り組んでおり、審判及び大会運営者が養成できたこともあり町内単独で実施が可能になっている。</p>				
苦労した点	<p>3年前に第1回大会を開催。各自治会から大勢参加いただくため、町民対象の講習会も開催している。室内ペタンクの認知度を高めるため、丸亀市ペタンク協会会長にも参加いただき指導を依頼。要項作成や大会準備並びに大会がスムーズに実施できるよう関係者間の連絡調整が苦労した点。</p>				
活動状況	<p>今年は11自治会、22チームの参加を得て実施。手軽にできることから参加者から好評を得ている。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>開会式</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>試合中</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>試合中</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>表彰式</p> </div> </div>				







コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	川西地区地域づくり推進協議会	代表者	会長 岩崎 正朔																		
事業名	自治会加入率アップ運動		事業費	80万円																			
事業の目的	<p>無関心社会が進行し、自治会離れとなる一方で、東日本大震災等の大規模災害を教訓に、今こそ地域が人と人のつながりの大切さを再認識し、防災、福祉など地域を取り巻く課題に、地域全体で取り組むことが求められている。本事業では、自治会未加入世帯に新自治会の結成を呼びかけ、既存自治会にも新たな住民の加入を促すとともに、さらには新たな受け皿として、コミュニティが運営する自治会組織「コミュニティ自治会」を設立。“地域の一員”を一人でも多く増やし、コミュニティ全体の基盤強化を図ることで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指すものである。</p>																						
事業の概要	<p>① 自治会未加入世帯への加入促進チラシ等の配布</p> <table border="1"> <tr> <td>②</td> <td>1回目</td> <td>2回目</td> </tr> <tr> <td>日時</td> <td>H28. 8. 27 (土)</td> <td>H29. 3. 12 (日)</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="2">川西町内一円</td> </tr> <tr> <td>配布数</td> <td>650 世帯</td> <td>900 世帯</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>51 名 (コミュニティ部会 39 名、自治会 12 名)</td> <td>40 名 (コミュニティ部会 30 名、自治会 10 名)</td> </tr> <tr> <td>新規加入</td> <td>3 世帯</td> <td>8 世帯 (H29. 3. 24 現在)</td> </tr> </table> <p>③ 発活動 (川西町内各所に大型看板、ポスター、幟を設置。街宣車活動。) 日時：H28. 11. 23 (水・祝) ※参加者：20 名</p> <p>《これまでの経過》 H24 年度より活動開始 (啓発活動中心)。 H25 年度より戸別訪問活動を本格的に実施。 H26 年度、コミュニティ自治会設立総会 (75 世帯が加入)。 H27 年度末現在のコミュニティ自治会加入世帯 106 世帯。現在は、既存の自治会と同じように、町民体育祭をはじめとした各種行事にも参加。</p>					②	1回目	2回目	日時	H28. 8. 27 (土)	H29. 3. 12 (日)	場所	川西町内一円		配布数	650 世帯	900 世帯	参加者	51 名 (コミュニティ部会 39 名、自治会 12 名)	40 名 (コミュニティ部会 30 名、自治会 10 名)	新規加入	3 世帯	8 世帯 (H29. 3. 24 現在)
②	1回目	2回目																					
日時	H28. 8. 27 (土)	H29. 3. 12 (日)																					
場所	川西町内一円																						
配布数	650 世帯	900 世帯																					
参加者	51 名 (コミュニティ部会 39 名、自治会 12 名)	40 名 (コミュニティ部会 30 名、自治会 10 名)																					
新規加入	3 世帯	8 世帯 (H29. 3. 24 現在)																					
この事業を企画・実施した人	川西地区地域づくり推進協議会の総務部会 (平成 28 年度：19 名) が中心となり、自治会未加入世帯を調査し、配布計画図等を作成。啓発ポスターや配布チラシのデザインについても検討を重ねた。																						
苦勞した点	戸別訪問活動にあたっては、住民との直接対応において、自治会加入のメリットなど様々な疑問を問われることが想定されたため、事前に対応マニュアル (Q & A) を練り上げたうえで、活動に取り組んだ。																						
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>啓発チラシ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>啓発看板の作成</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自治会加入率アップ運動キックオフ大会</p> </div> </div>																						

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	川西地区地域づくり推進協議会	代表者	岩崎 正朔
事業名	夜間避難訓練事業		事業費	1万円	
事業の目的	<p>夜間時の災害発生を想定し、被災時にも適切かつ迅速な行動を講じることが出来るよう、川西地区自主防災会が立ち上げた災害対策本部を中心に、各自治会長、民生委員、要配慮者支援者の連携を図りながら、地域住民が避難所及び避難行動等を確認する。夜間時における被災を想定という実践的な訓練を行うことにより、被災前の準備や考え方、被災時に取るべき行動を地域住民に強く意識付ける事を目的とする。</p>				
事業の概要	<p>実施日 平成 29 年 1 月 28 日 (土) 【一般市民】避難の呼びかけを聞いた住民は、ただちに非常持出袋を持ち、自治会等で定めている集合場所へ向かい、点呼・確認を行う。【率先避難者 (自治会役員)】自エリアを回って確認と呼びかけ活動を行う。避難者確認終了次第、避難所へ向かって避難開始。避難所に到着すれば受付を行う。【民生委員並びに要配慮者支援者】車椅子・リヤカー等を活用して、グループ内 1 名以上の要配慮者の避難支援を実施し、避難所において受付を行う。</p>				
この事業を企画・実施した人	<p>・川西地区自主防災会、各自治会の地域住民が参加約 570 名 (スタッフも含む)・避難所となる各施設の方々 (福祉施設ハレルヤ、人権啓発センター、救護施設萬象園、南中学校、城辰小学校、コミュニティセンター)</p>				
苦労した点	<p>この訓練に際して、避難所となる各施設や各自治会長等、多数の方の協力が必要となるため、スタッフの事前準備は毎年苦労する点である。また、訓練は数を重ねるごとにレベルアップすることが大事であると考え、当初は夏に行われた訓練も、1 月の夜間という大変寒い時期に実施するなど、避難住民・スタッフ共に厳しい環境で行っている。</p>				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【要配慮者の避難支援を実践】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【避難所の受付を待つ方々】</p> </div> </div> <p>実際に被災した時を想定し必要な物を詰めた大きな非常持出袋を持参する参加者等、住民の災害への意識の強さが感じられる。また、夜間訓練は非常に寒さが厳しい時期にも関わらず、住民は驚きもせずに参加し、約 570 名を超える方々に参加いただいた。地域の方の安心安全の為にも、防災意識を強く持っていただけるよう、夜間訓練は年々レベルアップを目指し継続しており、小さな子どもから年配の方まで 500 名以上の参加者数を訓練当初から維持している。</p>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	郡家コミュニティ	代表者	会長 杉尾眞澄
事業名	ふれあいサロン事業		事業費	100 千円	
事業の目的	<p>現在市内で人口の多いコミュニティである郡家校区では、人と人とのつながりを強めることが、地域の活性化や自治会加入率の向上につながるものと考え、お互いのふれあいと和を大切にするひとづくりをより一層すすめるため本事業を実施している。</p>				
事業の概要	<p>平成 27 年 7 月から、毎週金曜日の午前 9 時から 12 時まで、郡家コミュニティセンターで地域の住民が気軽に集まり、触れ合うことのできる場を定期的に開設し、地域の交流や仲間づくりを通じ、親睦を図る取り組みを行うもの。</p> <p>コーヒーやお茶、お菓子を無料で提供するなど、円滑なコミュニケーションがすすむよう様々な工夫をこらしながら毎週欠かすことなく事業が行われており、地域の和を育てる一助となっている。</p>				
この事業を企画・実施した人	郡家校区地域づくり推進協議会の役員				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への周知を図ること ・ 参加者集め 				
活動状況	<p>● 新たな仲間づくりの場として定着がすすんでいます</p>      				



コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	郡家コミュニティ	代表者	会長 杉尾眞澄
事業名	地震発生時の一時待機場所使用に関する協定締結事業（平成 28 年度～継続事業）			事業費	20 万円程度（看板制作費 予定）
事業の目的	近い将来予測されている南海地震に備え、地域住民が迅速容易に一時待機できる安心、安全な場所を確保する。				
事業の概要	郡家校区では、郡家小学校（体育館）、郡家幼稚園、郡家コミュニティセンター、南中学校（体育館等）、四国職業能力開発大学校（体育館）の 5 箇所が、避難場所に指定されているが、校区が広く、これら避難所からは遠い地域が多くあるため、地震等による危険を一時的に避難待機する場所として、校区内の事業所とコミュニティの間で一時待機場所使用の協定を締結し、看板の設置を行う。平成 29 年 4 月 1 日時点において、病院やスーパーマーケット、コンビニなど、10 箇所程度と協定を締結する見込みで、平成 29 年度は校区内住民へ、広く周知していく予定である。				
この事業を企画・実施した人	郡家校区における防災対策充実強化委員会				
苦労した点	住民のニーズを正確に把握するとともに、待機場所の所在に偏りがないうよう、依頼する事業所を選定した。				
活動状況	<p>協定を締結した事業所の敷地に設置する看板</p>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	垂水コミュニティ	代表者	会長 奥田 徹
事業名	第 22 回ふれあいまつり			事業費	約 51 万円
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・垂水町内住民の健康増進 ・教育文化活動及びレクレーションの推進及び実施 ・自治会会員の親睦 				
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地元獅子舞等の屋外芸能発表及びフォークソング等の室内芸能発表 ・お茶会 ・生花、絵画、書道等の作品展示 ・骨密度、足指筋力、血管年齢測定 ・各種バザー 				
この事業を企画・実施した人	垂水やすらぎの会				
苦労した点	ふれあいまつりは、クラブ活動の発表の場であるほか、一般町民の作品も展示している。毎年同じようなものにならないよう、いかに良い作品を集めるか、来場者から見て良かったと思われる作品をいかに集めるかが毎年苦労する点である。				
活動状況	<p>本年、平成 28 年は 11 月 12 日(土)と 13 日(日)の 2 日間開催したところ、天候にも恵まれて、大勢のお客さんで賑わいました。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	垂水コミュニティ	代表者	会長 奥田 徹
事業名	垂水町誌製作事業			事業費	約 200 万円
事業の目的	町誌を通じ、広く町民に郷土の歴史や文化などを紹介することにより、住民から愛されるまち垂水がさらに発展していくことを目的とする。				
事業の概要	将来に向けたまちづくり計画の策定に当たり、平成 20 年度の垂水やすらぎの会の総会において、昭和 59 年に発行された「垂水町史」の改訂案が浮上したことにより、旧町史を元に、地域の民俗や文化、自然に関する内容などを充実させて発行することとなった。				
この事業を企画・実施した人	垂水やすらぎの会において企画し、元小学校長や保育所長ら地域の有識者を委員とする町誌発行編纂委員会が中心となり、編集等を行った。				
苦勞した点	前回発行した町史のほか、資料は多く存在したものの、当時の様子を知る人が少ないので、これを町誌としてまとめる上で、編集や活字化するのに大変苦勞が多かった。				
活動状況	<p>平成 28 年 12 月に発行した「垂水町誌」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>垂水町内の自治会全世帯のほか、小学校や保育所などの関係機関に無料で配布しました。また、希望者には作成に要した実費をいただいた上で提供しています。</p> <p>先日、地元の新聞に小学校への贈呈の様子が掲載されたところ、問い合わせが多く寄せられるなど、町内はもとより町外の方からも非常に高い評価を得ています。</p>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	本島地区地域づくり推進協議会	代表者	会長 冨木田 誠
事業名	本島町合同運動会		事業費	約 70 千円	
事業の目的	<p>高齢化や過疎化が進み地域の交流が希薄になる中で、島内住民の交流や健康の増進などを目的として、保育所・幼稚園、小学校、中学校と合同で運動会を開催します。普段はなかなか会えない方や、世代の違う方との交流も行え、ストレスの解消や生きがいがづくりができ、体を動かし、競技を行う事により体力の増進や健康づくりを図ります。</p>				
事業の概要	<p>1. 実施年月日：平成 28 年 5 月 29 日（日） 午前中は幼保小中の学校関係の運動会を行い、午後からは、先生・生徒を含め、島民みんなで合同運動会を行います。(1)競技内容 競技は、本島地区地域づくり推進協議会体育部会が考え、チームに分かれて得点を競います。「玉入れ」や「パン食い競争」などの恒例の競技もありますが、「放水はじめ」や「缶つみ競争」などのオリジナルの競技も取り入れ、みんなで楽しみながら競技を行います。(2)バザー お昼には会場でうどんや寿司のバザーを行い、ここでも世代間の交流や生きがいがづくりを図ります。</p> <p>2. 参加者数 約 100 名</p>				
この事業を企画・実施した人	本島地区地域づくり推進協議会 体育部会				
苦勞した点	<p>(1)競技がマンネリ化しないように、また、高齢の方も参加できるように、競技の内容を見直したり、新しい競技を考えたりした。</p> <p>(2)高齢化や人口減少により参加者が減ってきており、また、島内全域から参加できるよう開催時間や集合方法などを考えた。</p>				
活動状況					


コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	本島地区地域づくり推進協議会	代表者	会長 富木田 誠
事業名	塩飽本島合同文化祭		事業費	約 400 千円	
事業の目的	<p>地域住民がコミュニティ活動の教室などを利用し作成した作品や、自分の趣味を活かした作品、小中幼保の生徒が作成した作品などの発表の場として、また、歌や踊りなどの発表、餅つきやバザーなどによる島内交流の場として合同文化祭を開催します。高齢化や人口減少が進み、地域の交流が希薄になる中で、島内住民の文化の向上、世代間の交流、生きがいつくりなどを目的として行います。</p>				
事業の概要	<p>1. 実施年月日：平成 28 年 10 月 29 日(土)・30 日(日)</p> <p>(1)展示会場（本島市民センター） 展示会場では洋服や絵画、習字や写真、生徒が製作した作品、本島の歴史や文化財について研究した成果、人権啓発作品などを展示</p> <p>(2)イベント会場（木鳥神社） イベント会場では、歌や踊りの発表、バザーや餅つきによるお接待等を開催し、島民による教養文化の発信や地域間、世代間の交流を図っています。この合同文化祭は、単に作品や芸能の発表と言うだけでなく、会場の設営や運営において多くの島民が係わり、参加協力し合って行う「手作りの文化祭」と言う雰囲気があります。</p> <p>2. 参加者数 500 名(2 日間)</p>				
この事業を企画・実施した人	本島地区地域づくり推進協議会				
苦労した点	<p>(1)高齢化や人口減少が進んでいることもあり、展示作品の出品が毎年減ってきており、展示方法を考える必要があった。</p> <p>(2)会場は、大掛かりなパネルや木材を組んで作っているが、設営・撤去作業のできる方が減ってきており、今後の会場設営、運営方法等を考える必要がある。</p>				
活動状況					

コミュニティ事業紹介カード

番号	1	団体名	ふれ愛の町ひろしまをつくる会	代表者	会長 平井 明
事業名	広島ふれ愛まつり		事業費	281 千円	
事業の目的	地域間交流の場づくりと高齢者の生きがいを目的として実施している。				
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実施年月日：平成 28 年 11 月 6 日（日） ・実施場所：旧広島小中学校体育館、運動場 ・参加人数：広島・手島・小手島の住民及び島外からの参加者計 200 名 ・催し物：（舞台）舞踊、詩吟、カラオケ、クイズ等 （展示）絵手紙、切り絵、手芸、写真、絵画等 （バザー）うどん、寿司、おでん （その他）保健師による健康相談 				
この事業を企画・実施した人	ふれ愛の町ひろしまをつくる会 ふれ愛まつり実行委員会				
苦勞した点	広島、手島、小手島の 3 島に在住する人たちの元気な姿が見られる場として、島を挙げてのまつりとなっている。会場設営、片付けに至るまで全て島民の力で行っているが、高齢化に伴う参加者の減少とマンネリ化をいかに打開するかについて毎年苦勞している。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>舞台</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>展示作品</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>展示作品</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>バザー</p> </div> </div>				

コミュニティ事業紹介カード

番号	2	団体名	ふれ愛の町ひろしまをつくる会	代表者	会長 平井 明
事業名	塩飽ひろしま島案内人養成事業		事業費	403千円	
事業の目的	地域全体の良さを共有し、広島としての地域の存在意識を高めるとともに、島民自身が島に住んでいる意義を再認識する。また女性の視点を活かし、島の文化や島の良さ等を来島者に案内することにより、リピーターを増加させる。				
事業の概要	<p>【平成 26 年度】・『HOTな島歩きマップ』の作成</p> <p>【平成 27 年度】・江の浦港待合所内に案内所を開設、・『さぬき広島の昔ばなし』（絵本）の作成、・『広島ガイドマニュアル』作成中</p> <p>【平成 28 年度】・『さぬき広島しま山めぐり（王頭山～心経山）』チラシの作成、・『さぬき広島しま山めぐり（王頭山～心経山）』看板作成、登山口に、設置（4ヶ所）、・『さぬき広島の昔ばなし（手島・小手島編）』（絵本）の作成、・丸亀レクリエーションフェスティバルに参加し、広島をアピール。</p>				
この事業を企画・実施した人	島案内人実行委員会				
苦勞した点	<p>・実行委員以外の人にも関わってもらいたいため、機会があるごとに活動内容の報告や発表を行い、啓発に努めているが人材育成が難しい。</p> <p>・島案内人実行委員自らが島内を歩き、わかりやすく図示した『HOTな島歩きマップ』は、広島を情報発信していくうえで重要なツールとなっている。これらの事業は、市のまちづくり補助金を活用し実施しているが、マップの増版も必要となっており、限られた予算内での事業展開に苦勞している。</p>				
活動状況	<p>HOTな島歩きマップ</p> 		<p>江の浦港待合所内観光案内所</p> 		
	<p>さぬき広島の昔ばなし(絵本)</p> 		<p>さぬき広島しま山めぐり案内看板 (王頭山登山口)</p> 